

夢童

菅波 茂

今年、いよいよスイスのジュネーブに事務所を開く。93年に「西のジュネーブ、東の岡山」構想を提唱してから12年。構想の源流は93年に発表された国連難民高等弁務官（UNHCR）によるオスロ宣言にある。「UNHCRは世界の難民保護のためには国際NGOだけでなくローカルNGOとも連携しなければ目的を達することができない」と。

構想の趣旨は「UNHCRや国際NGOが活動しているジュネーブとローカルNGOのネットワークのある岡山が、国連NGOであるAMDAの仲介により世界の人道支援に協力すること」である。AMDAは現在28カ国に支部を有する国際ネットワークに

成長した。このネットワークの拡充はAMDAの生命線である。

AMDAのジュネーブ事務所は国際ネットワークの代表部としての存在感と影響力を少しずつ発揮していければと願っている。事務所の機能は三つある。第一はジュネーブにあるUNHCRなどの国連機関、世界保健機関などの

国際機関、そして日本政府代表部など人道支援実施に関して連携することである。第二はジュネーブに事務所を置いて活動している国際NGOとの連携である。第三は特にアフリカの人道支援活動に対する欧州連台などからの資金獲得活動である。次の予定はニューヨーク事務所機能の開始である。最小で三つの機能を考えている。第一は国連、日本政府、AM

西のジュネーブ、東の岡山

DA支部および姉妹団体の大使との連携による積極的な政策提言である。第二はニューヨークに事務所をおいて活動している国際NGOとの政策提言に関する連携である。第三はニューヨークとワシントンにある国連および国際機関からのAMDAの人道支援活動に対する資金獲得活動である。

東の岡山に関して。岡山の精神風土は阪神大震災で証明されたように「弱者が存亡の危機に瀕した時に動く」である。具体的には宗教、教育そして医療に対する感受性の高さである。石井正弘知事は国際貢献条例を、萩原誠司岡山市長は国際福祉構想を掲げている。

自治体の長としての見識と実行力を世界が必要としている。一方、市民や県民の意識向上を目指して県、岡山市、倉敷市そして津山市などに支援されて始まった「国際貢献トピア岡山構想を推進する会」（トピアの会）は、「人道援助宗教NGOネットワーク」などの成果を上げて04年度末に10年間の華麗な活動の幕を閉じた。今や、医療・教育・宗教・環境・福祉各分野で、県内の地域と企業、各種団体などさまざまな組織が一緒に国際貢献活動を行い、子供たちが自立して世界にはばたく時代である。

20世紀は戦争とイデオロギで多くの人が死んだ世紀で、21世紀は災害により多くの人が死ぬ可能性のある世紀である。「西のジュネーブ、東の岡山」構想がより多くの人たちのお役に立てれば幸いである。皆様のご理解とご支援をよろしく願っています。

（AMDA代表）

題字は筆者